小さな親切作文コンクール 鹿児島県知事賞

ひみつのみずかけ

姶良市立蒲生小学校　一年　とうやま　みき

「わあ、ちいさくてかわいい。」
ごがつに、せんせいからあさがおのたねをもらいました。くろくてすこしちゃいろのたねでした。せんせいが、
「みんなは、あさがおのたねのおかあさんです。なまえをつけてあげましょう。」
とおっしゃいました。わたしは、かわいいたねだったので、「ひなつ」というなまえをつけました。
　あさがおのはちにつちをいれて、たねをまきました。わたしは、
「ひなつ、おおきくそだってね。」
といって、そうっと、つちをかぶせました。
　一しゅうかんぐらいたつと、おともだちのあさがおのめがでていました。
けれども、ひなつはまだでてきません。わたしは、すこししんぱいになりました。
「おみずをあげるから、おおきくなってね。」
といいながら、わたしは、ひなつにみずをかけました。
　わたしは、じどうクラブにはいっています。おかあさんが、まいにちおしごとをがんばっているからです。じどうクラブは、かもうしょうがっこうのなかにあります。しゅくだいをして、おやつをたべたら、そとであそべます。
　わたしは、そのときにあさがおをみにいっています。あるひ、あさがおをみたら、きゅうにひなつがおおきくなっていたので、びっくりしました。わたしは、
「はやく、おはなをさかせてね。」
といって、みずをかけました。となりのゆずねさんのあさがおをみたら、みずがかかっていませんでした、
「ゆずねちゃんのあさがおにも、おみずをあげるね。」
といって、わたしは、みずをかけました。ゆずねさんとゆずねさんのあさがおが、よろこんでくれるといいなあと、おもったからです。
　つぎのひ、ゆずねさんにそのことをはなしたら、
「ありがとう。」
といってくれました。わたしは、みずをかけてよかったなと、おもいました。
　これが、ひみつのみずかけのはじまりでした。
　わたしは、じどうクラブのときに、みずかけをするようになりました。はじめは、ひなつだけにやっていましたが、ゆずねさんのあさがおにも、みずをやるようになりました。そのうち、ゆずねさんのだけでなく、ほかのともだちのあさがおにもやるようになりました。そのことは、みんなには、ひみつにしておきました。
　あるあさ、あゆむさんが、
「はながさいているよ。」
と、おおきなこえでいいました。あゆむさんのあさがおのはなが、さいていました。うすピンクでかわいいはなでした。あゆむさんがにこにこしていました。わたしもうれしくなりました。
　まだまだ、ひみつのみずかけはつづけます。
「ひなつも、みんなのあさがおも、はやく、はなをさかせてね。」

「小さな親切」運動鹿児島県本部では、児童・生徒が素直に親切体験などを書くことによって、親切な心を育み、豊かな心情を深めることを目的として、毎年「小さな親切」作文コンクールを実施しています。第33回となる今年度は、47校から1648点の作品が寄せられ審査の結果、入賞者(校)が決まりました。